

「訪日客の増加で成田空港と都心を結ぶ有料特急が好調だった」と小山利明取締役は語る。

「訪日客」の追い風を受けた内需企業は多い。コーセーは主力化粧品プ

「バイオ」などが訪日客向けに売れて、3期連続で経常最高益となった。相鉄ホールディングスはホテル事業が好調。外国人の利用者が約35%を占め

る横浜ベイシエーション（横浜市）は高い稼働率を維持し、客室単価が12%上がった。

内需の「深掘り」を好業績につなげた企業もある。おつまみ大手のなと

りをにらみ、「チーズ
ジャーキー」など洋酒に合
う製品を拡充した効果が
出た（安宅茂経理部長）
原油など資源安の恩恵
も目立った。ANAホー
ルディングスは3期ぶり

買取の仲介業務が伸び
 合った。太陽ホールディン
 スは電子機器の回路を保
 護する特殊なインキで高
 いシェアを保つ。「世に
 出回るスマートフォン」の
 どれかは当社製品が使
 用されている。ただ、円高基
 調が続けば、訪日客から
 「お得感が薄れかねない
 い。原油相場も年初から
 回復が続いており、内需

り、2期連続で最高益を更新。自宅でワインなどを飲む「家飲み」の広が

に最高益を更新。国際線が好調だったうえ、「航空燃油費の減少も大き

「われっている」(佐藤英志社長)といい、最高益を達成した。

企業も含めて今年度の収益環境はこれまでより厳しくなる可能性があ

か目立つ。ただ、新興国
景気の減速や円高が自動
車など輸出企業の逆風と
なっており、上場企業全
体だと業績には急ブレー
キがかかっている。

9日までに16年3月期決算を発表した企業を対象にした日本経済新聞の集計では26%の企業が経常最高益を更新した。経常損益が改善した企業は約6割と過半に達した。例えば、京成電鉄の連

経常損益が改善 61%

経常損益が悪化 39%

経常最高益更新 26%

	社名	16年3月期の 経常利益	好調の要因
内需で稼ぐ	大東建託	1055億円 (10%)	相続税対策で賃貸物件の建設需要拡大
	京成電鉄	425 (15)	都心と成田空港を結ぶ鉄道路線が好調
	コーセー	345 (38)	訪日客の増加で化粧品販売が好調
	相鉄HD	279 (28)	訪日客の増加でホテル事業が拡大
	なとり	22 (20)	「家飲み」需要拡大でおつまみ販売増
資源安で恩恵	東京ガス	1888 (12)	LNG市況の低下でコストが低減
	ANAHD	1307 (95)	ジェット燃料費低下が業績の追い風
	ハマキョウレックス	83 (19)	軽油価格が下がり、貨物運送事業の採算改善
ニッチ分野で強み	太陽HD	111 (17)	プリント配線板の表面を覆う特殊なインキで世界首位
	日本M&Aセンター	71 (13)	中小企業の事業承継ニーズを取り込み成長
	栄研化学	35 (18)	大腸がん検診に使う便潜血検査用試薬が拡大
	エス・エム・エス	35 (30)	看護師の人材紹介で高シェア

(注) 経常利益のカッコ内は前の期比の増加率

ニッチな分野で競争力を持つ「中小型」企業も好調だ。6期連続で経営最高益だったのは日本M&Aセンター。経営者の高齢化に伴って会社を売却したいとするニーズをうまくつかみ、中小企業を中心にM&A（合併・